

## —原著—

### 新潟大学医歯学総合病院矯正歯科における初診患者の臨床統計調査

—2005年から2017年の13年間のデータをもとに—

眞館幸平, 丹原 惇, 高橋功次朗, 佐藤知弥子, 坂上 馨, 竹山雅規, 齋藤 功

新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科矯正学分野 (主任: 齋藤 功 教授)

### Clinical survey of new outpatients at orthodontic clinic Niigata University Medical and Dental Hospital -based upon data obtained from 2005 to 2017-

Kohei Madachi, Jun Nihara, Kojiro Takahashi, Chiyako Sato, Kei Sakaue,  
Masaki Takeyama, Isao Saito

*Division of Orthodontics, Faculty of Dentistry & Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University*

*(Chief: Prof. Isao Saito)*

令和3年10月1日受付 令和3年11月6日受理

Key words : 臨床統計調査, 特定機能病院, 矯正歯科患者, 不正咬合

#### 和文抄録

新潟大学医歯学総合病院矯正歯科において, 2005年1月1日から2017年12月31日までの13年間に来院した初診患者の動向について統計調査を行った。調査項目は年度別来院患者数, 年齢分布, 性別, 居住区域, 紹介の有無とし, 当科で治療管理を開始した新規登録患者のうち永久歯列期の治療(第二期治療)を開始した患者については, Angle分類, overjet, overbiteを調査した。その結果:

1. 調査期間中の初診患者数は5,269名で, 年間平均患者数は約405名であった。そのうち当科で治療管理を開始した新規登録患者は約70.0%にあたる3,673名で1年間の平均は約283名であった。男女比はいずれも2:3で女性がやや多かった。
2. 年齢分布は, 男女ともに初診患者では10歳代が最も多く, 新規登録患者で男性は10歳未満, 女性は10歳代が最も多かった。男女比はいずれの年代でも女性の方が多く, その割合は年齢が上がるほど高くなった。
3. 居住区域は新潟市が最も多かったが, 顎変形症患者や口唇裂・口蓋裂患者では一般矯正患者と比較して遠方でも来院する傾向を認めた。
4. 新規登録患者において, 一般矯正歯科治療が65.9%, 顎変形症が16.3%, 口唇裂・口蓋裂は12.4%, 限局矯正治療が5.4%であった。
5. 紹介患者は全体で61.8%であり, 顎変形症患者および口唇裂・口蓋裂患者は, それぞれ77.9%, 98.3%であった。
6. 第二期治療を開始した患者は, Angle分類ではClass IIが最も多く, 以下Class I, Class IIIの順であった。Overjetについては, +5.0 mm以上の患者が38.4%, 切端咬合および下顎前突の患者は9.5%であった。Overbiteは+5.0 mm以上が10.3%, -0.1mm以下は8.4%であった。

#### Abstract

A clinical analysis was carried out on patients who visited Orthodontic Clinic, Niigata University Medical and Dental Hospital, over 13-year period from January 1, 2005 to December 31, 2017. The findings were as follows :

1. The total number of new patients were 5,269. The annual average number was about 405 patients/year. The new enrolled patients were 3,673 and average number was about 283 patients/year. The ratio of male to female was 2 : 3.
2. Most new patients were teenagers, both male and female. Among new enrolled patients, male under 10 years and females in their teens, were the largest. In both cases, the male-female ratio was higher for female in all